やまぐち連句会

設立目的

コミュニケーション文芸として国際的に注目される「連句」を広く一般に普及すると共に山口県内において連句人口の拡大を図る。

このグループについての詳しい内容はこちら↓
http://shunan-chiikijoho.jp/shimin/abshosai.php?tourokubangou=330

「座の文芸」と称される連句は、老若男女が一緒に楽しめる唯一のコミュニケーション文芸としても人気です。

時にはJAZZとのコラボで連句を音楽で表現するなど、多彩な活動を展開しています。

平成21年秋の「山口県総合芸術祭」における連句大会です。湯田温泉で開催し、関東・九州・中国地方から多数の参加者がありました。

平成22年、萩で行った連句大会での座、連句実作の様子です。
連句は、「発句」という五・七・五をつくり、次に「脇句」という七・七をつくります。
続いてまた五・七・五、続いて七・七・・・と連々と続けていきます。
前の句をうけてイメージを膨らませ、次の句をつくります。

平成23年9月、周南市にて行った連句大会

連句大会を由宇、防府、萩、下関、周南で開催してきましたが、周南市では倉本昭氏の「田上菊舎」をテーマとした講演と連句実作会を各テーブルに分かれ楽しみました。

平成24年、秋吉台国際芸術村での
第6回山口県総合芸術文化祭連句大会①

フリートーク形式で連句について意見交換。
課題やこれからの取り組みに対する議論が
白熱！

連句大会②
各テーブルに分かれての
連句実作会

山崎八幡宮には文化財の連歌が保存されています。
やまぐち連句会も平成の時代の俳諧之連歌（連句）を奉納させていただきました。